

「都市づくりの進め方」に関する各部会の主な意見

1 「都市づくりの進め方」全般に関する事項

- ・「都市づくりの進め方」というタイトルについて、再検討してはどうか。カタカナ用語が多いパートもあるので、一貫性がほしい。
- ・市民からの信頼を高めるためには、組織を縦横につなげ“ここに行けば対応してくれる”ということを知りやすくすればよい。
- ・この計画には、評価という視点が抜けていないか。色々な評価の仕組みがあるのだろうが、より現場に近いところで評価する仕組みがあればよい。
- ・市民の実感と行政の評価結果が乖離しているケースがある。点数を上げるためだけの評価はやめて欲しい。
- ・行政の持つ資源の使い方を見直す必要があり、特に多くの人的・財政的資源を持つ外郭団体の組織や役割の見直しについては、今回の計画に記載するくらいの強い認識がなければ、転換への推進が難しい。
- ・職員も市民も若い世代に早くバトンタッチできる状態にしなければ、まちを変えていくことができないだろう。

2 各項目に関する事項

1) 第1章第1節「市民と行政の協働の推進」

- ・施策展開（4）に「協働」とある。協働というと格好が良いが、市民が一生懸命になっても、行政に協働の成果を生かす姿勢がなければ無意味である。

2) 第2章第1節「持続可能な行財政運営の推進」

- ・「あれかこれか」を選択に際して、選択しなかったことの説明も行っていく旨を施策展開（1）に記載してはどうか。
- ・施策展開（2）について、「生産性の高い」行財政運営という表現に疑問を感じる。
- ・施策展開（3）に「挑戦する」とあるが、何に挑戦するのか不明確である。また、同じ箇所「市民から信頼される」とあるが、窓口の職員は一生懸命対応してくれているが、管理職の職員も原点に立ち返ってみてほしい。
- ・生産性を高めるには、「あれかこれか」という選択と集中が前提となるが、その際には、なぜ選択したのか、あるいは選択しなかったのかについて、今まで以上に説明していかなければならず、その手順やプロセスを明らかにしていく必要がある。

3) 第2章第2節「市民に身近で、はやい区行政の実現」

- ・政令指定都市としてのメリットを生かすべく、今後どのようにして区行政を強固なものとしていくかが課題となる。
- ・「市民に身近で、はやい区行政の実現」を目指すならば、各区役所にコンビニを設置し、多くの銀行に対応したATMを利用できるようにするといった取組も考えられないか。
- ・タイトル中の「市民に身近で、はやい区行政の実現」について、「はやい」をあえて平仮名にしていることの説明が必要ではないか。また、「実現」とあるが、今でも全くなされていないというわけではないので、より良くするという意味合いの表現にした方が良い。
- ・区の行政機能を強化していくという記載に期待している。

4) 第2章第3節「真の分権型社会を担う自主的・自立的な都市を目指す」

- ・施策展開(1)について、「国や広域自治体の関与を極力排し」という表現は計画に書くには強い表現なので、「不必要な関与を極力排し」などの表現に見直してはどうか。
- ・タイトル中の「真の分権型社会」とはどのような意味か分からない。